

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 feel小久保Ⅱ

公表日 2025年 1月 27日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100.0%	0%	ガイドラインに沿った支援室を使用し、安全面に留意しながら支援を行っている。	継続していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100.0%	0%	個別療育と小集団活動の担当者を設定している。できるだけ余裕を持った人員配置を行い、お子様の状態に応じて個別対応を行うことができるようにしている。	お子様が安全な環境で楽しく療育を受けられるよう、また職員が休暇を取りやすいような環境を整え、余裕を持った人員配置に努めたいと思います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100.0%	0%	物の置き場所や活動時のルールなどについて、視覚的に分かりやすいように、イラストや文字で提示している。	今後もお子様の意見を伺ったり職員で意見を出し合ったりしながら、より見通しが持ちやすい環境づくりを心がけていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100.0%	0%	毎日清掃を行っている。適切な温度や湿度が保てるよう、気温に合わせてエアコンや加湿器、除湿器を使用している。	継続していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100.0%	0%	必要に応じて、パーテーションを使ったり刺激が少なくなるような環境整備を行ったりして、静養室としてほっとできるような空間を設けている。	継続していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100.0%	0%	反省点や改善点、良かったことなどを職員間で話し合い、次回の目標を設定する際に活用している。例えば、長期休暇のイベントを計画する際には、職員全員が前年度の記録を振り返った上で、目標設定や計画を行っている。	継続していきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100.0%	0%	保護者の意向や意見を伺えるよう、年に一度評価アンケートを配信し、いただいた意見をもとに業務改善につなげている。	継続していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100.0%	0%	職員全員が発言しやすいように工夫しながら、時間を長めに確保するなど、工夫しながら毎日のミーティングを行っている。特に新人職員についてはメンター制度を用いて、相談しやすい環境作りを行っている。	継続していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	90.9%	9.1%	第三者からの評価を得られるよう、あかし療育図鑑などの市の取り組みに参加したりして、業務改善に反映できるよう努めている。	事業所での取り組みについて、全ての職員が目的等を把握できるように情報共有に努めます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100.0%	0%	職員の資質向上のため、年間10回以上内部研修やチームビルディングを実施している。研修案内を職員に周知したり、業務時間中に外部研修を受講する機会を設けるなどをしている。	継続していきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100.0%	0%	ソーシャルスキルトレーニング（SST）、運動、制作等のプログラムを作成し、HPで公開したり、連絡アプリやInstagram等で発信したりしている。	継続していきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100.0%	0%	知能検査やS-M社会能力検査、行動観察からアセスメントを行い、子どもや保護者のニーズを反映した支援計画を作成している。	継続していきます。

13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100.0%	0%	原案作成時に会議を行い、担当職員を中心に意見を出し合って支援計画について検討を行っている。	継続していきます。
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100.0%	0%	保護者との会議の後、支援計画についてミーティングで周知し、個別ファイルに挟むことで都度支援計画に沿った支援が提供できるように留意している。	継続していきます。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100.0%	0%	必要に応じてWISC-V、KABC-II、S-M社会生活能力検査などを実施したり、普段の様子について毎日のミーティングで振り返ったりすることで、多面的に子どもの状況を理解できるようにしている。	継続していきます。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100.0%	0%	ガイドラインに沿って支援計画を作成し、保護者の意向やこどもの発達段階に応じた目標や支援内容を設定している。	継続していきます。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100.0%	0%	ソーシャルスキルトレーニング（SST）、運動、制作の3つのチームを設定し、それぞれ2名以上の担当者が意見を出し合い、プログラムの立案を行っている。小集団療育を行う職員を含めてミーティングを行い、お子様の様子や今後に向けて改善点について意見を出し合い、より楽しく安全なプログラムが作成できるようにしている。	継続していきます。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100.0%	0%	週替わりでプログラムを変更し、固定化しないようにしている。お子様との会話（例：作ってみたいもの）やミーティングでの話し合いなどを参考に、新しいプログラムを作成している。	お子様のやってみたいことを尋ねる機会を増やしたり、チームではない職員からも積極的に意見を募ったりして、プログラムの幅を広げていきたいと思っています。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100.0%	0%	個別療育で学習したことを小集団活動の中で活用する（例：個別療育で支援員を相手に自分から話しかける練習を行った後、小集団活動ではお友達にも話しかけてみる）など、お子様の状況に応じて、個別療育と小集団活動それぞれの強みを生かした目標を設定している。	継続していきます。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100.0%	0%	当日実施するプログラムや実施にあたっての注意点、役割分担などを、事前のミーティングにて共有している。	継続していきます。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100.0%	0%	毎日のミーティングで上手くいった支援や気付いた点について話し合い、共有している。	継続していきます。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100.0%	0%	日々の様子を記録に残したり、支援内容やその後の反応についてミーティングで話し合ったりすることで、支援方法の検証や改善に努めている。	継続していきます。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100.0%	0%	半期に一度モニタリングを行い、支援計画の達成度や見直しについて検討の上、次の支援計画の作成に役立てている。	継続していきます。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100.0%	0%	①お子様の将来の自立のために、日常生活で役立つスキルが獲得できるよう支援している。②毎日の制作等を通して、お子様が自由に表現する機会を提供している。③秋祭りに地域の方をご招待することで、事業所外の方とコミュニケーションをとる機会となった。④長期休みのイベントでは、特に外食やクッキングの活動を楽しみにして下さっているお子様が多い。	継続していきます。

	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100.0%	0%	個別療育やSSTを通して、自分の気持ちに気付いたり、上手に気持ちを伝える方法を学ぶなど、お子様に適した方法で自己決定する力を高められるよう心がけている。言葉で気持ちを伝えることが苦手なお子様には絵カードを用意するなどの支援を行っている。	継続していきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100.0%	0%	児童発達支援管理責任者と共に、できる限り個別療育担当職員も会議へ参加し、お子様の様子や課題について情報共有を行っている。	継続していきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100.0%	0%	お子様の状況や保護者様の希望などの必要に応じて、学校や他事業所との情報共有や保育所等訪問支援などを行い、連携して支援できる体制を整えている。	継続していきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100.0%	0%	関係機関連携や保育所等訪問支援を通して、困りごとや連絡事項だけでなく、上手くいった支援やお子様の強み等についても幅広く情報共有を行うよう心がけている。	継続していきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100.0%	0%	保護者様の希望やお子様の状況に応じて、就学前の様子等について伺い、療育に役立てている。	継続していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100.0%	0%	保護者様の希望があれば、療育での様子やお子様の強み等をまとめたものを作成し、共有を行っている。	卒業による移行だけに限らず、関係機関連携や保育所等訪問等を通して、保護者様の同意の上、関係機関への情報提供に努めます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100.0%	0%	児童発達支援センターの研修案内を職員に通知し、積極的に研修を受講している。	今後も研修を受講すると共に、必要に応じてスーパーバイズや助言をいただきたく思います。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	80.0%	20.0%	秋祭りに地域の方をご招待し、地域の事業所外のお子様と一緒に祭りを楽しむことができた。	これまでの形式にとらわれず、交流や活動の方法について、お子様や職員からアイデアを募り、より良い形で行いたいと思います。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100.0%	0%	こども部会に毎回出席し、会議の内容を職員に周知している。	こども部会に出席した経験のない職員に対しても会議での共有事項をイメージしやすいよう、丁寧な報告を行います。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100.0%	0%	お迎えの際にお子様の様子を詳しくお伝えすることを心がけている。連絡帳のコメントや送迎時のお話を通して、保護者様からも最近の様子をお話ししやすくなるよう努めている。	継続していきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100.0%	0%	学期に一度、4事業所持ち回りで開催している。2024年は就学相談について、起立性調節障害について、子育て支援について、ゲーム依存についてのペアレントトレーニングを実施した。	継続していきます。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100.0%	0%	契約時に書類を提示の上、説明を行っている。	今後も丁寧な説明を行うと共に、分かりづらかった箇所がなかったかをお伺いするなど、よりご理解していただきやすくなるよう心がけたいと思います。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100.0%	0%	モニタリングや初回契約時の聞き取りの際にお子様や保護者様の意向を伺っている。	継続していきます。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100.0%	0%	契約の際や支援計画の更新の際に、必ず面談を実施し、支援計画について同意を得た後に支援に取り組む。	継続していきます。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100.0%	0%	連絡帳のコメントや送迎時のお話を通して、保護者様からも最近の様子をお話ししやすくなるよう努めている。必要に応じて面談の案内をしたり相談に応じたりしている。	継続していきます。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100.0%	0%	ペアレントトレーニングの後に保護者交流会を実施したり、学期に一度、楽しみながらご参加いただけるような保護者向けイベント（例：レジン制作やハンドマッサージ）を開催したりすることで、交流の機会を設けている。秋祭りにはきょうだいにもご参加いただけた。	保護者会や秋祭りにご参加いただいた方の感想等を参考に、保護者様やきょうだいの方に「参加して良かった」と思っていたいただけるようなイベントを企画したいと思います。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100.0%	0%	苦情や心配なこと等も事業所に話しやすいように努めるとともに、すぐに問題解決をして安心してご利用いただけるよう心がけている。契約時に外部の苦情受付の連絡先も提示している。	継続していきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100.0%	0%	一か月の活動をHPやInstagramで発信したり、研修や行事、外部との連携についても都度発信したりしている。	継続していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100.0%	0%	個人情報保護のための職員研修を行い、個人情報を含む書類は施錠の上、厳重に保管している。	継続していきます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100.0%	0%	視覚優位のお子様にはイラストを提示するなど、分かりやすく伝えるよう留意している。保護者様からのご希望に応じて、メッセージアプリでの配信だけではなく別途書類にてご案内やアンケートを配布するなど、障害の有無に関わらず、どなたにも分かりやすい連絡方法を心がけている。	継続していきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100.0%	0%	秋祭りに地域住民の方を招待したり、co-opで開催された笑くぼカフェや和坂マルシェといった地域行事に参加したりすることで、地域の方に事業所のことを知ってもらえる機会を設けている。	継続していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100.0%	0%	年単位で各計画を作成している。また、訓練時の様子をホームページ等で公開している。	継続していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100.0%	0%	学期に一度、災害種別を変えて避難場所を設定し、避難訓練を行っている。また、訓練時の様子をホームページ等で公開している。	継続していきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100.0%	0%	服薬の必要性やてんかん発作の有無やその時に職員がとるべき対応など、契約時に確認を行っている。定期的に服薬やてんかん発作等のこどもの状況を確認し、発作が起きた時に対応できるように掲示等を行っている。また、てんかん発作や嘔吐に関する研修や訓練を毎年実施している。	継続していきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100.0%	0%	食物アレルギーのあるお子様に対して、事前にクッキングの材料や外食時のメニューについて相談の上、商品を確認していただいている。おやつはアレルギー源になるものを除去したものを用意している。	継続していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100.0%	0%	おもちゃの破損やシーリングのずれがないか等、定期的に安全のための項目について確認を行っている。小集団に関する研修を毎年実施し、危険な場所や出来事にいち早く気づくことができるようにしている。	継続していきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100.0%	0%	重要事項説明書に関する説明を通して、安全計画への取り組みを周知したり、研修実施後にブログやInstagramにて研修内容の報告を行ったりしている。また、加入している保険等についても契約時に伝えている。	継続していきます。
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100.0%	0%	ヒヤリハットが起きた際には、速やかに対応した職員が報告書を作成し、改善策をミーティングにて話し合っている。法人内の他事業所にも共有を行っている。	継続していきます。	

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100.0%	0%	一年に一度、虐待防止のための職員研修を実施し、虐待を防ぐために個人が留意すべき点や虐待が起こりにくいような職場環境に関する知識を身に着けている。日々の振り返りの中で、職員同士で虐待にあたる対応がないか確認し合っている。	継続していきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100.0%	0%	虐待防止、身体拘束についての委員会を設け一年に一度委員会を開催している。また、必要な場合には保護者様に十分な説明を実施した上で、身体拘束について承諾を得ている。実際に身体拘束に至った場合は詳細を記録し、委員会等で話し合いを実施している。	継続していきます。